

災害を防ぐために 一年一組³ 山本 駿

ぼくは今回の災害メモリアルKobeを授けて、授業の内容はインドネシアのことがほとんどだったけど、ぼくたちのもっとも身近に起きた阪神淡路大震災のことを考えました。当時はまだ少なくて憶えてないけど、今となっては、この何年間家族をうしなつた人々の心の傷、震災で受けた神戸の傷、少しは考えられるようになりました。でも、今この場で地震が起きてもぼくたちにはどうすることもできません。だけど、災害の被害を最小限におさえることはできなくはないと思います。前回とは違って近年大規模な地震が来るということはもちろん分かっています。だから、一人でも多くの人を助かるように一人一人が準備しておくことができると思います。ぼくの友達にも震災で家族をなくした人がいます。その人はとても優しく、皆に好かれていきます。こういう言い方はよくないと思うけど、震災が起こったから、その人はいつも笑顔で、そして優しくいれるんじゃないと思

笑顔を、そして優しくいれるんじゃないと思

います。他にも震災があったからこそ、この
H A T 神戸があった。震災があったから、者
中学校 なぎさ小学校があった。震災があ
たからこの仲間と出会えたんだと思います。
反対に震災がなかったらまだ見たことも
会ったこともない人と会えてたと思います。
ほくは、人間は何かでまごとかあるたび、
学んでいける生き物だと思っています。

12年前の阪神淡路大震災を忘れないことが
まじと優しい人間社会を作っていくと思いま
す。